

喧嘩長屋 (七卷)

帝キネ 時代映畫

原作並脚色者

監督者

撮影者

主演者

紹介

高井清太郎

矢内政治

古川松

實川延松

第三百三十一號

時代劇の領域に於て此の種作品の進路は尙其生命がある。單なる時代劇の同一なるテマよりも、或は又時代劇の姿を借りて半端な階級意識を強調せんとする傾向よりも、随かに永遠性があり大衆の興趣がある。平凡なテマではあるが見て居て飽きがない。意味のない興味がある。残滓を残さないだけに、氣持がい、併し乍ら、其等の興趣も此の儘では尙一步の強さがない。喧嘩渡世の浪人の性格をも少し強調しては、ラストになつて悪玉の點出は例の通りであるが、事件の爲めの附加法の感ではある。此の邊に一工夫欲しいと思ふ。

興行價値——愉快になれる作品。添へ物。(四)

月廿四日 大阪芦邊劇場、神戸相生座